はじめに

文京区民オーケストラは1993年6月6日に発足し、2018年6月で25周年を迎えました。

昨年は当オーケストラにとって大きな出来事があり、発足以来ご指導をいただいた松下功先生が9月16日、本オーケストラの練習中に倒れられ、そのまま帰らぬ人となってしまいました。残された団員にとっては、返す返すも無念でなりません。大きな礎を失いました。我々はこの現実を受け止め、また、新たなオーケストラに生まれ変わり、飛躍していかなければなりません。それが松下先生への恩返しにもなると思います。

年数では四半世紀という一つの節目ではありますが、我々にとってはこのような特別の事情で、期せずして大きな転換期を迎えることとなりました。その意味で、これまで歩んできた歴史を一度振り返る節目としてこの25周年記念誌を制作することに致しました。この記念誌をご覧になることで、松下先生と共に歩んできた文京区民オーケストラの活動をより身近なものとしてご理解いただくことができれば幸いに存じます。

2019年6月 文京区民オーケストラ 団長 太田 治





表紙のことば

文京区民オーケストラ創立以来ご指導頂いた松下功先生 の幅広い人との繋がりのおかげで、当団はこれまで国内 外の著名なアーティストの方々や各種の音楽団体と共演する機会に恵まれました。こうした先生から頂いた多方面とのご縁を「つなぐ」というモチーフで表し、音楽記号風のデザインで表現したのが、本記念誌の表紙を飾るタイトル「つなぐ」です。これは、先生の遊び心を受けて、逆さにしても「つなぐ」と読める対称形にデザインされています。本誌にある多数の寄稿からも、先生が育んで来られた「音楽を通じた人の縁」に対する多くの方の謝意をご理解頂けることでしょう。

デザイン:穴沢健児(クゥールーム)

目 次

文京区民オーケストラ創設の経緯 太田 治…4

1. 文京区民オーケストラ25周年に寄せて

山上 貴司…9/高野 哲夫…10/田村 文生…11/松本 卓以…12/福崎 雄也…13/大成 雅志…14 加藤 直明…15/平井 志郎…15

2. 創団から第30回定期演奏会まで

文京区民オーケストラ創設から第1回定演まで…17/定期演奏会の全記録…19/活動実績年表…40

3. 海外への演奏旅行

ドイツ演奏旅行…42/韓国演奏旅行…46/クロアチア演奏旅行…50 ロシア演奏旅行(追悼文:岩田守弘)…53/ベトナム演奏旅行…58

4. 国内での演奏旅行

おらが村コンサート…63/八丈島演奏旅行…64/白河第九演奏会…66

5. 他団体、ソリストとの共演

渡辺 克也さんの思い出…71/ミヤキバレエ団公演…72/新星合唱団との合同演奏会…74 U. クネルツァー氏…76/L. クヴァント氏…78/S. イェジェルスキー氏…82/A. ブラウ氏…85

6. 地域活動、ボランティア

小中学校の校歌録音…89/文京区民オケの地域音楽活動…90

3. オーケストラの日常

文京「民オケの仲間たち~松下先生とともに…95/コンサートマスター雑感…96 ※ 「係エピソード…98/定期演奏会前の合宿…100/選曲会議の現場にて…103 『春会といえば…打ち上げ…104/団内カップル紹介…106/文京オケのこれから…108

8. 松下功先生の思い出と追悼メッセージ

松下さんの学生時代の思い出 太田 治…110

インタビュー:夫・松下 功と文京区民オケについて 松下(土屋)律子…111

お別れのことば 澤 和樹…114

余韻嫋嫋として あまねく宇宙に― 夢枕 獏…116

マエストロ松下と「飛天遊」 林 英哲…118

ロシア演奏旅行の追憶 渡邉 規久雄…119

松下氏と出会えた幸運 ナンシー・アンブローズ・キング…120

松下教授から学んだ多くのこと ミミ・ゴンスキー…122

貴方が居ない、大いなる違和感 辻 秀幸…123

祝 文京区民オーケストラ25 周年、そして。 縄田 昌司…124

松下 功先生の指導の記録 鈴木 毅…125

クリスマス宴(奏)会を聴いて 松下 功 (寄稿文再掲) …128

松下作品・保存資料

楽譜と写真で見る松下 功作品…130

和太鼓協奏曲「飛天遊」/シンフォニック・ポエム「夢の航跡」/幻想曲「通りゃんせ」

津軽三味線協奏曲/天空の祈り~とうとき命に~

メディア掲載記録…140

文京区民オーケストラ名簿…143

編集後記…144

1. 文京区民オーケストラ25周年に寄せて

松下 功先生のご縁でつながりご指導をお願いして いるトレーナーの先生方から、25周年を迎えた文京 オケへメッセージをいただきました。





「松下」がくれた出会い、繋がり



山上 貴司 元都立芸術高校及び総合芸術高校講師 日本ファゴット(バスーン)協会副会長

文京区民オーケストラとの出会いは 23 年ほど前です。 藝大で同級生だった松下君に誘われて 2 回目か 3 回目の定期演奏会を聴きに行った記憶があります。彼の口癖「良いだろう、やってくれない?」の一言に負けて、直後に文京オケのトレーナーを引き受ける事になりました。文京オケの印象といえば、第一に「本番に強い」ことです。定期演奏会後は、松下君に必ず「良いだろう」と聞かれました。彼の前向きなところが、本番に強い文京オケをつくりあげたんだろうと思います。とはいえ、文京オケの最も強烈な印象は団内結婚が多いことです。とてもアットホームで、創立当初から結婚ブームがあった気がします。今は「第何次」か分かりませんが…。

松下君との一番濃い思い出は、私が盲腸になったときのことです。大学 4 年のある月曜の夕方、増上寺近くの小さなホールで同級生の澤君(現東京藝大学長)が出演するコンサートに行きました。澤君が「今日はギャラがたくさん出たからご馳走するよ」と言ってくれたので、赤坂でステーキを食べまた。その後、別の飲み会の 2 次会で松下君と合流し、3 人でラーメンを食べに行きました。電車がい、当時松下君が住んでいた赤坂の家に行くと、今度はお母さんが宴会の用意をしてくれていたす。私には 5 回目の夕食でした。翌朝まで暴飲暴食をし、火曜の午前にオケの授業に出て、午後に野球大会をして…土曜に異変を感じ、病院に行くと盲腸だと発覚しました。松下君は「俺の家に来たから盲腸になったなんて、言うなよ」と言っていました(笑)。2 人にとって懐かしい思い出話です。

私が頼んで書いてもらった松下作品の世界初 演も思い出に残っています。2009年にバーミンガムで開催した国際ダブルリード協会のカンファレンスのために、オーボエ、ファゴット、ピアノのトリオ「ティサラーナ」を書いてもらいました。2015年に日本でカンファレンスを開催した際も、パンフレットに挨拶文を寄せてくれました。そして、文京オケと長野で活動するカメラータ・ナガノに呼んでくれたこと。長野県出身の私を「逆輸入」の形でカメラータと結びつけてくれました。これも松下君が私にくれた出会いであります。



「松下」という大黒柱が抜けて、これから文京オケはどのように進んでいくべきか。現代音楽を演奏するアマチュア楽団は珍しく、文京オケには松下作品を通じて現代音楽に触れてきた強みがあります。アマチュアオーケストラは世の中の縮図です。文京オケには実に多彩な人材が集まっており、多方面でキャリアを重ねた方がたくさんいらっしゃいます。松下君の人脈で、ベルリンフィル奏者らとの関係も続いてきました。松下君と付き合えたことにプライドを持って欲しい。そして、一人ひとりが彼からもらったエネルギーを大事に持って活動を続けて行って欲しいと思っています。

第 16 回定期演奏会

2007 年 10 月 21 日 北とびあ さくらホール ベートーヴェン/「エグモント」序曲 メンデルスゾーン/交響曲第4番「イタリア」 チャイコフスキー/交響曲第4番



いくつか見られるパターンの、大物の後の名曲プログラム。今回は前プロにスポットを当てます。 前年の 2006 年はクロアチアへ演奏旅行に行きました(p.50 参照)。3 回目の海外公演でしたが、 その全てでフルートの長谷川さんが実行委員としてお世話してくださり、成功に導かれたのです。その ご尽力に対して松下先生はいつも感謝していらっしゃり、この回の選曲では「長谷川さんになにかお 返しをしてあげたい」と、彼の大好きな「エグモント序曲」を決定しています。もちろん、長谷川さんが 1st パートを演奏されたのでした。以下に、長谷川さんからの曲目紹介文です。

エグモント序曲

この曲はクラシックのひとつの形「苦しみから喜び」へのテーマが、とても分かりやすく表現されており、短い時間でその全てを味わえます。これは私が大学オケで演奏した時の感想で、しかも大学の4年間で最も感動した曲の一つでしたので、前プロとしてはこれしかないと思い推薦した次第です。

ゲーテの戯曲「エグモント」は 16 世紀のスペイン支配に対するオランダの独立戦争 ー・・スエグモント伯爵の奮闘、伯爵とクレールヒェンとの愛、彼女の死と幻影を通した救済と勝利の「感を内容としています。 1809 年にウィーン宮廷劇場の支配人ハルトルからこの戯曲の付随音楽で依頼され 1810 年にベートーヴェンが作曲したのですが、「私はこの音楽をゲーテに対する。のみから書きました」と綴っています。

(FI 長谷川 捷一)

第 17 回定期演奏会

2008 年 4 月 26 日 文京シビックホール 大ホール オネゲル/交響的運動 Pacific 231 デュカス/交響詩「魔法使いの弟子」 ベルリオーズ/幻想交響曲



文京オケが「オールフランスプロ」をやるとまあこうなりますね、という感じでしょうか。前回の長谷川さんではないですが、筆者も大学時代に演奏した(私は乗っていませんでしたが)Pacific 231 が忘れられず、文京オケの選曲に出しては落ち、出しては落ちを繰り返し、他の2曲が決まってから「じゃあ、フランスものだしそろそろいいのでは…」とまた出したところ、松下先生が「しょうがないな!」と拾ってくれたのだと思います。 オネゲルが機関車好きだったのは有名で、この曲は大陸横断に使うような巨大な蒸気機関車が動き出し、高速巡航し、急ブレーキで止まることを描いたのだ、とされていますが、この表現のために数学的アプローチで音符を書いているんですよね。 すなわち動き出しからリズム(音

符の数)が1,2,3…から8まで増えて巡航速度に達する、ブレーキはその逆、なんてことをしています。最初の合奏練習では曲を知る人がいないので演奏しながら部屋中に「?」マークが浮かんでいましたが、本番後のアンケートでは「こんなかっこいい曲があるんですね、知ることができて良かった」なんて書いてくれた方がいて嬉しかったです。

メインの「幻想交響曲」も、第10回記念のプログラムとしてマーラーの1番と最後まで競りましたが、内容的に暗めなので記念演奏会としては「巨人」の方が良いだろう、と落ちた曲です。それから6年、ようやく演奏機会を得られました。



演奏会で使用した Pacific の 楽譜

第 18 回定期演奏会

2008 年 11 月 30 日 文京シビックホール 大ホール ブラームス/ハイドンの主題による変奏曲 バルトーク/ヴィオラ協奏曲(デラマジョーレ版、クネルツァー編) Va: ウルリッヒ・クネルツァー ブルックナー/交響曲第7番(ノーヴァク版)



シャルーン・アンサンブルのメンバーで文京オケ初期からお付き合いいただいているヴィオラのクネツァーさんがソリストとして登場しました (p.76 参照)。彼はバルトークを研究しており、この曲を望い、また通常の演奏では使わない版の楽譜を選んだのでした。クネルツァーさんのこだわりのした素晴らしい演奏でしたが、難しかったですね。

今回のワーグナーチューバは、松下先生がお知り合いのホルン奏者の方に相談して特別に貸してもらえることに。良い音のする年代物の楽器ですが、ケースが少々痛んでおり、お借りしている間に取っ手が壊れてしまったので私たちで勝手に修理しました。返却する時に松下先生にその旨をお話しし、持ち主にご説明頂いたところ、その方には「うん、トッテも良い!」と言われた、と先生は大変喜んでいらっしゃいました。

ブルックナー 7番の 2 楽章では、作曲中に亡くなったワーグナーのための葬送音楽がワーグナーチューバにより奏でられ、その後半にホルンのユニゾンの強奏から極端にデクレッシェンドするフレーズがあります。ここはワーグナーの体から魂が離れる瞬間の表現で、その後のフルートがハラハラと涙を流す…なんて演奏しながら考えていたのですが、今ではつい松下先生のご逝去をそれに重ねてしまうのです。



ワーグナーチューバ隊の記念写真

は、本番前の5月5日というタイトな日程の中で、私たちと巻き添いを食った関さんご夫婦の為に、アドリア海が見える教会前の広場で結婚記念野外コンサートを開いて下さった。まさに感謝しかない。

この合宿での出来事から、実際にクロアチアに行き、その後の旅程を含めて帰国するまでは本当に短かった。日本での結婚式は、桜が満開の4月1日(エイブリル・フール)に前倒しで挙げた(この為、未だに

この結婚は実は嘘なのではないか、という噂も 巷にある)。

アマチュアオーケストラがこのような世界 的音楽家と、さらに海外で共演するという機会 は、中々簡単に巡り会えるものではない。文京 区民オケに在籍し、そして松下先生の指導を仰 ぎ、運営という裏方を一手に引き受けて下さっ た皆様のお陰で、貴重な体験を出来た事を本 当に感謝申し上げたい。松下先生と先生の作 品があったからこそ、全ては始まった。先生亡 き今、再び文京オケが松下先生の作品を提げ



打ち上げでスピーチをする山口ひろし氏

て、海外公演できる日がやってくる事を、筆者は強く願い、是非実現したい(筆者は、現在仕事の事情で一時的にオケ活動を休止しているので、先ずは復帰するところからではあるが)。

【特別演奏会 ~クロアチア演奏旅行に向けて~】

2006年4月16日(日)
川口リリアメインホール
グリンカ/ルスランとリュドミラ序曲
ブルッフ/ヴァイオリン協奏曲第1番ト短調
Vn:ジェラール・プーレ
松下 功/津軽三味線協奏曲
津軽三味線:山口 ひろし

ブラームス/交響曲第4番 ホ短調

【ザグレブ演奏会】

2006年5月7日(日)
リシンスキーホール
グリンカ/ルスランとリュドミ 予世
ブルッフ/ヴァイオリン協奏曲第1
Vn: O.シュールゴット
松下 功/津軽三味線協奏曲
津軽三味線: 山口 ひろし
ブラームス/交響曲第4番

アンコール:

松下功/幻想曲「通りゃんせ」

【ドブロヴニク演奏会】

2006年5月5日(金)

聖ヴラホ教会前

久石譲/君をのせて(映画「天空の城ラピュタ」より)

日本古謡/さくらさくら

津軽三味線独奏曲

津軽三味線:山口 ひろし

メンデルスゾーン/結婚行進曲

エルガー/愛のあいさつ

熊本県民謡/五木の子守歌

松下功/幻想曲「通りゃんせ」

ロシア演奏旅行 (2010年)

Vc 鳩山 紀一郎

ロシア公演企画のきっかけ

2008年初頭からモスクワに住む予定だった私は、是非文京区民オーケストラのメンバーにもロシアの良さを知ってもらいたいと考えました。2007年末の忘年会でロシア公演を提案すると、松下先生を始め多くのメンバーが興味を示してくださいました。モスクワに移住して直ぐに、在露大使館員の友人(運よく大使館に友人が複数いたのです)やロシア人の知人に話をすると、好感触が得られました。2008年3月には団内に準備委員会を発足しました。実に2年半という期間を要した大プロジェクトの始まりです。ロシア人は和太鼓が大好きとも聞いていたし、私たちもいつか松下先生の和太鼓協奏曲「飛天遊」を林英哲氏のソロで演奏してみたいと願っていたので、これをロシアで実現できれば絶対に成功するという確信はありました。しかし、和太鼓の運搬には当然多額の費用がかかるため、多くの協賛金を募る

必要があり、充分な準備期間が必要だったのです。とはいえ、最初の1年間は主に企画書を練ったり、団員の意思確認をしたりしました。また、この時期に、ピアニストの渡邉規久雄氏によるラフマニノフのピアノ協奏曲第2番も演目に入れること、また、モスクワ公演では当時ポリショイ劇場でソリストをされていた岩田守弘氏バレエを加えた新しい「飛天遊」の舞台を創こと、決まりました。また、日露の人的・文化、流を得意とするNPO法人日本・ロシア協会(日口協会)も支援してくれることになりました。



モスクワでの本番直前の記念撮影

協力依頼と調整に奔走

2009年3月、日口協会加盟の旅行代理店で、今回の演奏旅行を企画から全面協力してくれることになったロシア旅行社の方とモスクワ・ジャパンクラブ(商工会議所)、在露大使館広報文化部、ならびに在サンクトペテルブルグ総領事館、国立サンクトペテルブルグ音楽院(サンクト音楽院)を訪問したのを皮切りに、種々の協力依頼や調整が本格化していきました。サンクト音楽院では、8月24日の公演ということで仮予約を行いました。4月には投資会社である「メトローポル」、7月には通信会社の「トランステレコム」に協力を依頼しました。最終的には、これらのロシア企業2社から、演奏会費用総額(団員の旅費は除く)の約半分をいただくことになりました。文化事業の支援に対する国としての理解の深さが感じさせられる結果でした(それだけが目的ではないかもしれませんが)。

11月にはヤマハ・ミュージックがモスクワ公演の大型楽器貸与を約束してくださり、在露大使館も2010年秋開催の文化フェスティバル「日本の秋2010」の一環として支援を検討してくれることになりました。加えて、2010年6月に行う事前特別演奏会に岩田氏とその教え子のバレエダンサーの子供たちを日本に招聘するために、日露青年交流センター(JREX)やロシア青年問題局とも相談を開始しました。最終的にはそれぞれから補助金をいただくことができ、(色々ありましたが)無事に事前特別演奏会は実現しました。

年を越した2010年1月に、モスクワ公演の会場がノーヴァヤオペラに決定すると、モスクワ・ジャパンクラブを通じて徐々に日本企業・団体の協賛・助成が決まりました。最終的に日本企業では、前述のヤマ

八丈島演奏旅行(2016年9月)

Ob 渡辺 繁

八丈島演奏旅行は初めての国内演奏旅行という位置づけで、2016 年 9 月 22 日からおよそ 4 日間 の日程で行われました (9 月 23 日に子供向けの音楽鑑賞会、翌日に演奏会と 2 回公演を行いました)。 なぜ八丈島だったのかといえば、私がちょうど八丈島の病院で勤務することになり、さらには長谷川 さんが島に遊びに来てくれて八丈島での演奏会を提案してくれたためです。 そもそも私が八丈島で働くことになったのは、昭和 60 年にダイビングのライセンスを取るため八丈島を訪れたことがきっかけだったと思います。 当時はジェット機ではなくて YS - 11 というプロペラの飛行機に乗って行ったのですが、ダイビングのため頻繁に島を訪れるうちに八丈島が大好きになり、いつかは自分の仕事を生かして島で生活したいと思うようになりました。 ただ Dr. コトーではあるまいし、離島というへき地での仕事を考えるとそれだけの自信もなく、実際に決心できたのは医者として 20 年働いてからになってしまいました(奥さんを説得するのにも 1 年かかりました!)。

八丈島に赴任するために飛行機に乗ったのはちょうど日曜日だったため、直前に文京区民オーケストラの練習に顔を出しました。松下先生は「みんなで八丈島に行くからな」と言ってくれました。自分でもいつかは八丈島での演奏会を実現させたいと思っていましたが、まさか赴任して2年もたたないうちに実現できるとは思いませんでした。松下先生、長谷川さん、ありがとうございます!

さて、1回目の演奏会は島の小中学生を対象とした音楽鑑賞会という形式で、9月23日に町役場内にある多目的ホール「おじゃれ」で行われました。これは八丈町の教育委員会からオーケーニ自腹で島に来てくれるのだから、町としても何かしてあげようと提案してくれたもので、島中の中生を移動させるためにバスを用意するなどしていただきました。その結果、当日の客席は超満身より大成功でした。当初1回目の演奏会は軽音楽的なプログラムで、2回目はクラシック音楽のフログラムでという風に考えてもいたのですが、お客さんが2日連続で足を運んでくれるだろうかという問題やオーケストラ側でも練習する曲が多くなってしまうことも懸念材料であったため、町の協力でこのような音楽鑑賞会を開くことができたことは大変良かったと思います。



八丈島の合唱団との共演も実現した

2回目の演奏会は翌日の9月24日に同じ多目的ホール「おじゃれ」で行われました。前日に客席で聴いていた吹奏楽経験のある中学生にも何人か参加してもらったほか、島に来てから一緒に音楽をしている社会人の吹奏楽仲間たちにも同じステージに乗って演奏してもらえたことはとてもうれしかったです。また、演奏をしながらいつもお世話になっている人たちや患者さんの顔を客席に見ることができてとても幸せでした。普通なかなか演奏できない團伊玖磨の西海讃歌の演奏も大変良い出



ひときわ賑やかだった八丈島公演の打ち上げ

来だったと思います。後日、たくさんの方から演奏会は素晴らしかった、また演奏会を開いてほしいと 声をかけられました。

八丈島演奏旅行のもう一つの目的として、オーケストラの皆に八丈島のことを知ってもらいたい、楽しんでもらいたいということがありました。あいにく雨の日が多かったのですが、これも八丈島の一面だと思いますし、後日完成した八丈島の演奏旅行記を見てみんながそれぞれ楽しい寄稿をしてくれていたので、この目的も達することができたのではないかと安心しています。

ちなみに自分は知らなかったのですが、八丈島のキャバクラはとても有名なのですね。連日キャバクラに行きたいという女性陣を含めた多数のリクエストがあり、3 日連続でご案内させていただきました。ャバクラに 3 日連続で行ったのは生まれて初めてでした。貴重な経験をさせていただきました。ありと

最後になりますが、八丈島を含めて東京以外でオーケストラの演奏会を行うことは移動の手間や経費を考えると非常に困難なことです。八丈島演奏会が実現できたこと、そして自分もその演奏に参加できたことを大変うれしく思っています。演奏会実現のために力を尽くしてくれたスタッフの皆様には、言葉では言い尽くせない感謝の気持ちでいっぱいです。ありがとうございました。

【八丈島演奏会】

2016 年 9 月 24 日 (土) 八丈島多目的ホールおじゃれ グリーグ/「ペールギュント第 1 組曲」 シベリウス/交響詩「フィンランディア」 圏 伊玖磨/西海讃歌 ほか



八丈島演奏会の成功を喜ぶ松下先生と筆者

シャルーン・アンサンブルの素晴らしき友人

シュテファン・イェジェルスキー

ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団 シャルーン・アンサンブル

まず、もはや功が私たちと一緒にいないことへの喪失感を表したいと思います。私が功に出会ったのはもうかなり前ですが、彼がベルリンで作曲の勉強をしていた時でした。コントラバス奏者のペーター・リーゲルバウアーの共通の友人でした。

昨日(2019年2月16日)の夜は、シャルーン・アンサンブルの35周年記念演奏会でした。ペーターと私はシャルーン・アンサンブルの創設メンバーです。これまでずっと、松下功は私たちとシャルーン・アンサンブルの素晴らしい友人でした。東京藝術大学で功が企画した大変面白いプロジェクトを一緒に行いましたし、何度かのシャルーン・アンサンブルの日本ツアーでは、功の壮大な作品「飛天遊」を和太鼓奏者の林英哲さんと演奏しました。この曲はいつも聴衆に大きな感銘を与えました!

また、文京区民オーケストラのみなさんと出会い、R. シュトラウスのホルン協奏曲第2番を共演したことは本当に楽しかったです!素晴らしい時間を共にし、また今でもオーケストラの友人たちと交流を続けています。この演奏会をアレンジしてくれた功に改めて感謝します。今年の秋に日本に行く時、功の追悼演奏ができたら、と思います。今は、彼がいないことが寂しくてたまりません。

2019年2月17日ベルリンごて

Stefan de Leval Jezier .

Berliner Philharmoniker Scharoun Ensemble

I would like to express my sense of loss that Isao is no longer with us. I met Isao many years ago when he was a composition student in Berlin. We were both friends of the bass player Peter Riegelbauer.

Yesterday evening was the 35 anniversary concert of the Scharoun Ensemble. Peter and I are founding members. Throughout the years Isao Matsushita has been a great friend of us and of our Ensemble. We have had several very interesting projects recently with the Geidai University planned by Isao. We toured Japan several times with the Scharoun Ensemble featuring Isao's spectacular piece Hi Ten Yu with the famous drummer Eitetsu Hayashi. This piece was always a great hit with the audience!

I greatly enjoyed meeting the members of the Bunkyo Civic Orchestra and performing the Strauss Horn Concerto No.2 with them! We had a great time and I am still in contact with friends from the orchestra! I am thankful to Isao for organizing this concert for me! When we come to Japan in the fall, I hope we can play a memorial concert for our friend Isao. He is greatly missed!

アンドレアス・ブラウ氏 (Andreas Blau)

FI 長谷川 捷一

2017年11月12日の第28回定期演奏会(p.36参照)にはベルリンフィルハーモニー管弦楽団に45年の長きにわたり在籍されたフルーティストのアンドレアス・ブラウ氏をお招きし協演して頂きました。これは松下功先生のご人脈に因るものでした。松下先生はベルリンで研鑽を積んでおられた時からブラウ氏と親しくしておられ、松下先生の結婚式ではブラウ氏が演奏されたそうです。

ブラウ氏は1949年にベルリン近郊のシュマンゲンドルフで生まれ、フルートを始めたのはかつてベルリンフィルの首席フルーティスト、オーレル・ニコレの演奏を聴いたのがきっかけでした。ブラウ氏がベルリン音楽学校在学中はニコレの後任首席フルーティストのカールハインツ・ツェラーに師事していました。ツェラーが事故で吹けなくなった時に18才の彼がエキストラで1番フルートを吹く機会に恵まれました。ベルリンフィルは演奏旅行が多く入団試験の時間が取れないので演奏旅行途中、ミュンヘンでベルリンフィルの全員と指揮者ヘルベルト・フォン・カラヤンの前でオーディションを受けました。その時カラヤンに「低い音を弱く吹いてごらん」と言われて演奏したのをカラヤンが気に入り、ブラウ氏は1969年、

まだ20歳という若さでオーディションに合格しベルリンフィルのメンバーに加わりました。ブラウ氏は2014年まで45年間ベルリンフィルに在籍し、常任指揮者カラヤン、クラウディア・アバド、サイモン・ラトルの夫々の時代の首席をい、ベルリンフィルを牽引して来られた第一

今回ブラウ氏に演奏していただいたライネッケの協奏曲はベルリンフィルでは一度も演奏されたことが無かったので、ブラウ氏が退団する時に彼自身がこの曲を選んで演奏されたそうです。



ブラウ夫妻とフルートパートの記念写真

ブラウ氏は帰国後に次の様な感想を送って下さいました。

「見事なアンサンブルと共に演奏できたことが、とても嬉しかったです。文京区民オーケストラの演奏はとても美しく上品で、見事なアンサンブルで伴奏して下さったので、私は自由に演奏することができました。他の演目もオーケストラはとても良く出来ていました。もう一度一緒に演奏する機会が持てるといいですね」



演奏芸俊のレセノンヨンでは、当団名言団貝の称号を贈られた

シンフォニック・ポエム「夢の航跡」(1989年)

(1996年11月23日、第4回定期演奏会)

<松下先生-プログラムノートから>

「1989 年の夏、私は南太平洋のフィジー本島より小さな貨物船「タイカンバラ号」で揺られること 20 時間、周囲をサンゴ礁で囲まれた美しい島「マンゴ島」に到着した。そこでは、海は塩水と知りながらも思わず飲んでみたくなる程の透明さを保ち、その海を宝石のように光輝く無数の魚が泳いでいる。花はこれ以上ないほど美しい色合いを醸し出し、死した牛は、他からけっして冒されることなく、ゆっくり、ゆっくりと自然に帰る。人口およそ 50 人のこの島では、常に自然の恵みをふんだんに受けながら、静かな時が過ぎていく。

『夢の航跡』は、この「マンゴ島」での私の体験と印象を基にした交響詩であり、この島に限りない夢を抱いていたある故人のメモリアル・ビデオの音楽として作曲された。全体は調性的旋律を基調としており、「序曲」と、それぞれに題名を持つ4つの楽章より構成されている。地球規模の自然破壊が問題とされる昨今、「マンゴ島」で見たあの海の青さとダイナミックな自然の美しさが、いつまでもこの地球に保たれんことを祈りつつ……。」 (松下 功)

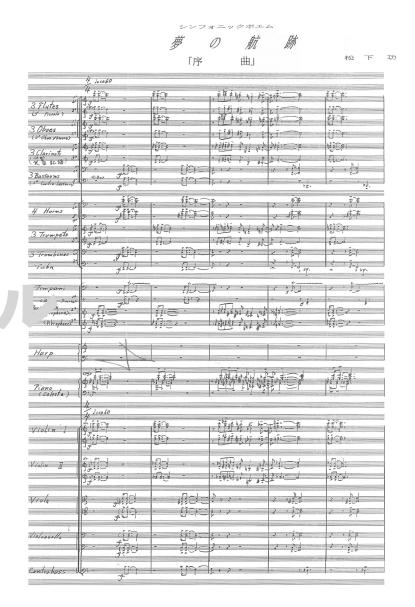
ここでいう「ある故人」とは、東京急行電鉄社長・会長だった五島昇氏のこと。同氏が他界された 追悼ビデオの音楽としてこの曲は委嘱されたのです。当時の先生曰く「現地に行かないと曲のイメージが湧かない」とか言って「マンゴ島」に連れて行ってもらい、2週間ひねもす遊んで過ごしたとか。

現地で楽曲の構想を十分練られた先生ですが、第2楽章のテーマが浮かんでこない。ご今宅で「あ~、2楽章ができない」と漏らしていると、当時幼かったお嬢さんが「二ガークショ」「ごもう一度言ってごらん?」「二ガークショ」「この抑揚…これだ!」第2楽章の冒頭、木管楽者)テマはこうして決まりましたとさ。以来、先生は「夢の航跡」の話がでる度に、「二ガークショ」の「話をされていました。それからフィジーの思い出といえば現地の楽器「フィージアンベル」。先生日マコーラの小さめの瓶に大きいスプーンを2本差して振る」といういい加減、もとい、素朴なもの。第4楽章の中間部にちょびっとだけ出てきますよ。

(Vn 木村 経世)



「マンゴ (Mago)島」にて



25 周年記念誌 制作委員会

委員長:三浦 洋

進行管理:馬杉 峰子

編集・校正:佐々木 望

委員:新井 大介/加藤 静子

/木村 経世/駒井 浩臣

/ 芝﨑 千秋/ 鈴木 裕子

/長谷川 捷一/鳩山 紀一郎

/ 水野 隆介/三谷 玲子

/山口 剛/渡辺 伸啓

アドバイザー:太田 治/金子 弥生子/近藤 琢哉

デザイン・制作

株式会社クゥールーム

発行出 2019年6月2日

文京区月 一 ストラ

:

編集後記

平成30年12月12日(水)午後6時半、寛永寺輸王殿にて、「松下功 お別れの会」がしめやかに執り行われました。松下作品の生演奏に包まれて大勢の参列者が献花に並ぶなか、当団員も多数参列し、閉会後に先生の思い出話にくれる折りに「先生ともに過ごした25年間を何らかの形に残そう」という話が持ち上がったのが、記念誌プロジェクトの切っ掛けでした。

その後、12月23日にキックオフをして以来、ほぼ隔週で12回の委員会や各専門部会を開催し、各自の執筆活動、 関係団体・共演したソリストへの原稿依頼、団員やOBからの写真の募集などなど、仕事と楽器練習の合間に(何が何の合間か分からないほど)時間を割いて、刊行を第30回定期演奏会一松下先生追悼ーに何とか間に合わせることができました。

本誌は、「先生の追悼記念誌」としたいという意見も出ましたが、「作曲家・指揮者 松下功」の広範囲なご功績と活動において 文京オケはごく限られた一部であって、 僭越に過ぎるということで、あくまでも当団が先生と共に 過ごし、楽しんだ歳月を振り返る記念誌として制作致しました。

本誌は団員にとり先生との活動を記憶に留める宝物になると共に、国内外のアーティストからも先生が如何になると共に、国内外のアーティストからも先生が如何に慕われてきたかを多くの皆さんにお伝えすることで、微力ですが私達なりの「つなぐ」を果たすことができればと願っています。

(Tp 三浦 洋)



2019年4月、第30回定期演奏会に向けての練習場にて